

に御くらゐにつけたてまつり給もとの御門御門ことしこそ十六にならせ給へばいまだはるかなるべき御さかりに、かゝるをいとあかすあはれとおぼされたり、永治のむかし、どばの法皇玄ゆとく院の御心もゆかぬにおろし聞えて、近衛院をすゑたてまつり給ひし時は、御門いみじう玄ふらせ給て、その夜になるまで、勅使をたびくたてまゐらせ給へりしぞかし、さてその御いきどほりのすゑにてこそ、ほうげんのみだれもひきいで給へりしを、この御門はいとあてにおほどかなる御本上にて、おぼしむすばれぬにはあらねども、けしきにももらし給はず、世にもいとあへなき事に思ひ申けり、承明門院母后などは、まいていとむねいたくおぼされけり、  
 【神皇正統記土御門】此御門まさしき正嫡にて、御心ばえもたゞ玄く聞え給ひしに、上皇鳥羽鍾愛にうつされましけるにや、程なく讓國あり、立太子までもあらぬさまになりなき、

【六代勝事記】阿波院天皇御門は、隱岐院第一の子中在位十二年のあひだ、天地變異なく、雨降時をあやまたず、國をさまり民ゆたかなり、太上天皇鳥羽威徳自在の樂にはこりて、萬方の撫育を忘れ給ひ、又近臣寵女の諫つよくして、四海の清濁をわかざるゆゑに、今上陛下御門帝運いまだきはまり給はざるをおろし奉り、茅洞の風秋冷しく、茨山の月影さびしかりき、

【承久軍物語】承久四年十二月一日、上皇鳥羽第三の皇子、守成のみ徳を御位につけ給ひて、第一の御子御門をばおしこめ奉らしめ給ふ、これは當腹の御寵愛によつてなり、されば一院後鳥新院御門御中よからずとぞ聞えし、

【宮槐記】承久四年十一月廿四日、早旦春宮宣旨送書狀、可有御讓位之事云々、悦存之由返答畢、又自別當之許送書狀、此事也、風聞已送年月、今度決定歟、是災星彗星之所致之歟、但故舉大事被謝之趣也、非任天運之儀歟、廿五日己酉、今日御讓位御門也、可被渡璽劔於皇太弟順徳御在所云云、